

私の紙面批評

八戸学院大学ビジネス学部教授 田中 哲



〈たなか・あきら〉 1956年4月生まれ。静岡県浜松市出身。八戸学院大学ビジネス学部教授、図書館長。会計学関係の科目を担当している。まちづくりの団体をめぐり、八戸市中心市街地の活性化にかかわる活動も行っている。

「村民の足 ぐんとき、14年から安全投資を拡大することを決めた24面」によれば、1日から、六ヶ所村と東北新幹線七戸十和田駅を結ぶ予約乗り合いタクシーの本格運行を開始したとのことである。前日午後5時までの予約制で、1往復の運賃収入が9千円を下回った場合、差額を補助する仕組みである。このことと関連して、「地方鉄道 行き先見えず」(19日付7面 解説 オビニオン欄)である。JR北海道がローカル線の大規模見直しに取り掛かることに関する論評である。2011年の特急脱線事故以来、事故等が続

2016年11月掲載分 公共交通の考察深めて

れば、路線バスを中心とする乗合収入の長期低迷などにより、慢性的に資金繰りが悪化し、赤字経営が続いていたとのことである。

まちづくりにおいて、地域内あるいは地域間の移動手段の確保は重要な課題であるが、公共性と採算性のバランスを取りながら、地域公共交通を維持していくことの難しさがかかる。利用者も交えた方向性の検討が求められる。本紙では、地域公共交通のありようについての考察を深めてほしい。

11月は、「閉校」の記事が目立った。「学びや」に別れ新たな一歩(20日付朝刊16面)では、七戸町の榎林中学校の統合に伴う閉校と東北町上北地区3小学校の統合に伴う小川原小学校の閉校を記念する式典の様子が報じられている。また、「地域の学校 心に刻む」(21日付朝刊10面)では、八戸市と階上町に学区がまたがる学校組合立田代小中学校の閉校式の様子を伝えている。「学んだ証を生き続ける」(27日付朝刊15面)では、黒石市の六郷中学校の閉校記念式典の様子を伝えている。高樋市長によれば、同校は「地域交流の拠点」として、また(住民)皆さま方の心のよりどころとして大きな役割を果たしてきた。いずれの記事も、加速する少子化という現実を私たちに示している。

ただし、対応策を講じていないわけではない。「風間浦にいながら学習塾」(11日付朝刊24面)がそれである。同校の「子ども学習塾」では、ICT(情報通信技術)技術を活用して村内にいながら青森市の学習塾の講義を受けられるような仕組みを立ち上げ、質の高い教育環境を望む子育て世代の要望に応えようとしている。本紙では、学校がまちづくりに与える役割や効果について考察してほしい。